

実はとっても正確な海洋大の授業評価

今年の結果は急落した。それも科目区分内のボトム近くまで落ち込んだ。

この科目の授業には自信があった。授業内容は基礎からトピックスまでよく工夫されている。何よりも教師のたくいまれな優れた人格・識見のおかげで、学生の評判はとてよかった(はずだった)。事実14年度、15年度の授業評価ではほとんど全項目で学科の平均を(言わせていただくと、はるかに)上回っていた。特に、「興味ある新知見の修得」、「教員の熱意」、「後輩への推薦」等の項目が高得点だった。では何故、今年は？

恐ろしいことに思い当たる節があるのである。授業内容は昨年とほとんど同じである。いや実は同じにせざるを得なかった。この科目の前のコマにピンチヒッターの授業が入り、3コマ連続で違う内容の授業をすることになった。準備も手が回らず、最後のこの授業の頃にはいつもくったりと教壇に立った。授業以外の雑用が何故か一気に増えたこともあり、学生にグチったりもした。何で僕ばかり…とか。その結果…。「興味意欲」の項目はかるうじて平均近くだが、いつもは高い「教員の熱意」や「後輩への推薦」といった項目まで、軒並み全滅であった。思いがけずこの授業評価が極めて正確であることを確信した瞬間である。もう自らの人格・識見についてあらぬ妄想はいたしません。来年は、初心に戻って努力させていただきます、はい。

(海洋環境学科 JK)



パワーポイントの導入は学生の授業理解を妨げる？

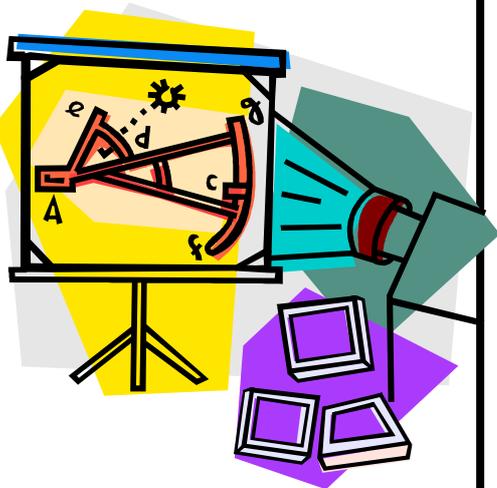
「食品化学」は食品生産学科の専門基礎科目(必修)で、食品の学修に必須の入門的科目である。理解もさることながら、基本的内容は記憶しないと、高学年での他の専門科目の学習に支障が出る。即ちある程度は、暗記も必要な科目である。

授業の進め方について5年の間に大きな変化があったが、その主原因は途中で教室にOHPと液晶プロジェクタが設置されたことに関連している。2000～01年度は板書で講義を行ったが、2002年度は経過措置として、資料をフィルムに印刷しOHPでスクリーンに映写、2003～04年は完全にパワーポイント(PP)に移行した。なおいずれの年もスライド中の文字情報は、すべて縮小印刷して学生に配布した。

試行の2年と全科目実施の3年の間に、通算5回の授業評価を受けたが、経時的に最も大きく変化した評価項目は『学生の理解度を考慮』と『学生の授業参加と考える工夫』であり、PPの導入に伴ってこの2項目の評価が低下した。一方『話し方や速度』、『人格無視や差別』、『熱意を感じたか』などは、PPに切り替えたあとも変わらなかった。

PPを用いる授業では板書の時間が要らない反面、あらかじめ組み立てたとおり授業を進めてしまう傾向が強い。また教室内の照明を暗くしているため、学生全体の反応を見ながら話の内容を微調整するには、かなりの工夫が必要である。来年度からは別の科目を担当するが、新しい科目でもこれらを反省材料として、より学生の学習意欲を引き出す授業構築に取り組みたいと考えている。

(食品生産学科 TH)



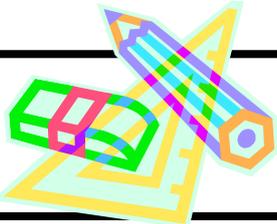
さて、どうやって勉強してもらおうか？

質問1(予習・復習)の平均値の低さにまずショックを受ける。微分積分に次いで重要な基礎科目なのに、科目区分の中でも下から数える方が早いという低さは、初めての経験だ。

何でこんな結果になったのだろう？一般的な傾向として、質問1の平均値は品川に較べて越中島はかなり低いこと、また、1年生と2年生以上の比較でも、1年生は上級生に較べてかなり低い事ははっきりしている。昨年度後学期のフロッピーディスクで見ると、品川の平均値は2.80 なのに対し越中島は2.47 であり、16年度前学期分についても委員会資料から計算すると2.56と2.27 とかなり大きく違っている。越中島で1年生と2年生以上を比較すると2.22と2.31(品川では2.34と2.69)である。品川の上級生がしっかり勉強するのを越中島の1年生が足を引張る構図が見えてくる。この科目でも、その点がモロに出たとも言えるが、平均より低いことから、他に何かがあるはずだ。思い当たることが1つある。それは昨年担当した1年生の解析(今の微分積分)ほど、繰り返しその重要性を話すことがなかった点だ。数学は難しいだけに、十分な動機付けが必要なのだろうし、それも繰り返し説くことが大切なのだろう。これは今後の授業の中でしっかりと伝えて行きたいと思う。

なお委員会資料の中に、たまたま科目区分が1科目だけで、その科目の平均値が分かるものがあった。越中島のこの科目は総合評価も含めてすべての平均値がとても高いのに、質問1だけが平均を大きく下回っているのが分かる。もしかしたら、越中島の1年生にはこんな評価をする傾向があるのだろうか？残りの授業を進める中でこの辺のことも確かめて見たいと思う。

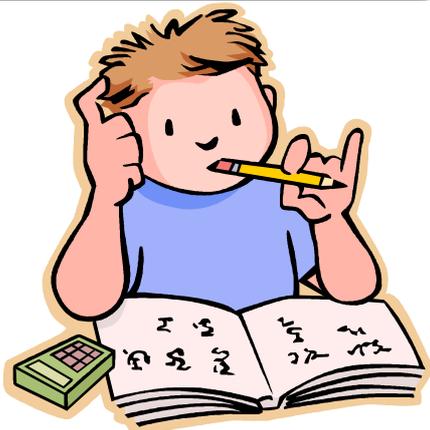
(流通情報工学科 SN)



受講者の参加度改善の試み

多人数(200名弱)を対象とした大教室での講義において、受講者の授業参加意識を高めるために、今年度からグループ別(15から20名)討論を導入した。授業時間の3分の2程度(1時間強)を講義し、その内容に関連したテーマを設定して議論してもらった。それから、その過程をメモし、代表者に発表してもらった。提出されたメモおよび発表について次回の授業の冒頭でコメントした。結果として、自由記述の中にはこうした試みに対して積極的な評価もあったが、全体のアンケート評価においては大きな向上的変化はみられなかった。同様な試みを行った他の授業(50名弱のクラスで5から6名のグループ分けをし、検討資料コピーを事前に配布)が比較的参加度評価が高かったことを考慮すると、グループ規模(参加度の個人差)、検討テーマの理解度など再考の必要がある。

(海洋政策文化学科 SK)



全部が高得点でなくても、いいん(良いん・委員)です

私の授業Gは、科目の性質上学生に予習復習をさせないことを目標としている。たしかに、授業内容を十分に理解させるために予習復習は効果がある。しかし、学生が予習復習しなければ内容を理解できないということは、それだけ分かりにくい授業であるということでもある。なぜなら、授業時間中にすべて理解できてしまえば、予習復習が必要ないからである。したがって、冒頭の目標を立てているのである。このことを、授業評価で確かめてみると、予習復習では平均が1.5で目標が達成できた。しかし、私の目標は90分間の集中力を前提とするため、授業態度が3.0で大学全体平均を下回っていることが問題である。次年度にはこの評価を高めるように改善を考えたい。そのためのヒントは、教員熱意が3.0と大学全体平均を下回っていること、別紙の自由記述から得られる。1限目のため遅刻者が多いが、私が意図的に遅刻者に発問していることが、かえって他の学生にとっては非効率と感じさせ、集中力をそぐことになっていることがわかった。熱意の演出と、遅刻者が出ない対策、遅刻者に対する対応策をこれから考えてみたい。

(海洋電子機械工学科 MM)

